

Superwool[®] 607 HTは 一般の廃棄物処理場に 処分することができる。



Fact sheet 2

要 点

- 廃棄物の処分について、EU加盟国は多くの指令によって制限されています。
- 0.1wt%以上のセラミックファイバー(RCF)を含む廃棄物は、指令91/689/ECに基づき「有害である」に分類されています。製造したり使用されたRCF製品を廃棄する場合は、認可を受けた業者が、認可されたごみ埋立て場に適切に処理することが決められています。
溶出試験によって土壌または地下水を汚染する危険性が全くない事を示したならば、指令1999/31/ECは、そのような廃棄物が一般の廃棄物処理場で処分されるのを可能にします。
- EUの廃棄物指令に対する個々の加盟国の実行において、それぞれの国の条例は一致しません、そして廃棄物処理の規制は国毎に異なります。
- 実際に、それぞれの国の廃棄物処理場は有害廃棄物処理の認可を受けることや受け入れ準備をしないので、多くのRCFの使用者は処理費用の著しい増加を経験しています。
- スーパーウール繊維製品を含む廃棄物は溶出試験が土壌又は地下水を汚染する危険性がない事を示したならば、一般の廃棄物埋立処理場で処分することができます。
- 有機バインダーを含まないスーパーウール製品は、ガラス繊維材料とみなして廃棄することができます。
(ヨーロッパ廃棄物コード10.11.03)



実際に、スーパーウールのユーザーは、廃棄物を処分する困難や廃棄コストの上昇がない事を経験するでしょう。
この事は、RCFのユーザーと比べて、スーパーウールのユーザーの明確な利点です。



Superwool[®] 607HT[®]

各国の例

1. ドイツではスーパーウールの廃棄物は不活性の廃棄物と見なされ、廃棄物処理条例(DepV) § 6と7と、廃棄物貯蔵法令(AbfAbIV)の § 31によって非有害物の廃棄物埋立処理場に処分できます。
2. イギリスでは、環境省は廃棄物分類において「刺激する」に分類しなくて良いと見なします。そして明確にスーパーウール製品は、いかなる有機バインダーも含まない、又は、その他の有害物質に汚染されていないのであれば、ガラス繊維物質のように見なされると述べています。
3. フランスでは指令1999/31/EC¹はまだ実施されていません。しかしながら2004年12月30日からの"Arrêté"は、付録2で言及された溶出試験の基準を満たささえすれば、不活性な廃棄物は産業廃棄物埋立処理場に貯蔵することが出来ることを示しています。

スーパーウール製品の廃棄物の処理と取り扱いの指針

- 散らばらないように注意深く取扱って下さい。廃棄物を濡らす(湿らすだけ)のは粉じんの発生を少なくするのに役立ちます。
- 仕事場の周りに廃棄物を保管させないでください。
- 仕事場では、廃棄物が発生したらすぐに、密閉容器かポリ袋の中に入れてください。
- 容器が一杯になったときは、処分のために移動する前に、密閉してください。
- 溶出試験は廃棄物が地下水や土壌を汚染しない事を明らかにする為に必要かもしれません。スーパーウール製品の廃棄物は有機材料とそのほかの汚染物質を含むかもしれません。
- スーパーウール廃棄物を有害廃棄物に混ぜないでください。
- 廃棄物の発生者が廃棄物の処理や取り扱いに責任があります。多くの管轄区域によって、廃棄が確実に実施されるように、埋立地まで運ぶ廃棄物契約者/運送者によって記録が管理、提出されなければなりません。
- 廃棄物処理業者から廃棄物が適切に処理されていることを立証するために確認書が発行されます。
- スーパーウールの廃棄物は普通に使用している間に、有害物質に汚染されているかもしれません。その様な場合は専門家の指導を求めなければいけません。

注釈 1 決定2003/33/ECによる技術的な進展に対応する。



Thermal Ceramics

A World Force in Heat Management

詳細については東京に本社がある当社までお問い合わせください

info@thermalceramics.co.jp

tel: 03-5207-7641

fax: 03-5207-7659

www.thermalceramics.com/superwool
www.thermalceramics.co.jp